

当面（平成26年まで）のクマ類の保護管理における課題と取り組み

	課題	H24	H25	H26
昨年度整理した課題	【課題1】 管理目標の1つである「個体群の維持・回復」を評価することが難しい 1) 具体的な管理目標を明確に（数値化）できていない地域がある。 2) 生息動向調査の低コスト化（行政が継続的に実施可能な手法）の開発が必要である。	←	研究レベルの課題	→
	【課題2】 人身被害が深刻な問題であることから、人間活動域への分布拡大防止（里山排除地域の設定等）対策が必要 1) 人間活動域への分布拡大防止を目的とした効果的な技術手法の開発が必要である。 2) また、それら対策を推進するために、関係省庁・部局間の連携強化や土地所有者・地域住民への普及啓発、里山管理等の事業費や人材の確保が必要である。		←	→
	【課題3】 大量出沒が起こることを前提とした管理手法の検討が必要 1) 現在、大量出沒に伴い大量捕獲が発生しているが、捕獲による個体群への影響など適切に判断するために、生息数推定・動向把握の手法の改善が必要である。 2) また、大量出沒時の学習放獣の対応方針や狩猟、有害鳥獣捕獲、個体数調整による捕獲の組み合わせなど、運用方法の検討が不十分である。	←	一部、研究レベルの課題	←
	【課題4】 広域保護管理の取組が十分進んでいない地域がある 1) 行政界ごとに異なる対策を実施する場合、対策の効果が十分に発揮されないことが考えられる。地域個体群として同一の施策、対策を実施する広域保護管理を推進する必要がある。 2) 広域保護管理を推進するためには、国・地方自治体の連携強化、メリット（コストの低下・効率化など）の提示が重要である。			←
	【課題5】 モニタリングを含む保護管理に要する経費の確保が困難（既存予算も縮小傾向） 1) 財政部局への対策効果の適切な説明など、国・地方自治体の努力強化が必要である。 2) 安価で適切なモニタリング手法の開発が必要である。			
	【課題6】 シカやイノシシの捕獲強化に伴う錯誤捕獲発生への対応 1) 現在、錯誤捕獲が発生していない地域でも、シカやイノシシの捕獲強化に伴い発生することが考えられる。適切な放獣方法や放獣体制の整備が必要である。	←	→	→
	【課題7】 捕獲に対する社会的コンセンサスが得られにくい 1) 地域住民や土地所有者に対し、科学的情報に基づく普及啓発を推進する必要がある。			
共通	保護管理を推進するための人材の確保		↔	